

Mr. M. Kobayashi  
R. Galyão  
Bueng, 407

市アセントア街  
十六番地  
第一回ミル  
銀行所  
銀行  
一回ミル  
謹告  
書山六郎  
謹告  
一回ミル

東麒麟  
IND. AGRICOLA  
CAMPINELA  
Caixa 528 S. PAULO

重傷三名輕傷二名を出せり  
急報により増強せられたる部  
は二十六日午前六時に至り  
兵營を爆破せり

## 愛國の至誠 奔騰

國民の献金相續く

# 皇軍決然夜襲を斷行 北平城南西兩門を占據！

(東京ラヂオ廿八日) 昨廿七日正午を期限とする我最後通牒に支那側は更に應する模様なく愈々挑戦的態度に出で益々露骨に戰備を固めてゐるので、流石の我軍も遂に堪忍袋の緒を切り茲に決然膺懲的攻撃を敢行、正義の鋒先尖く北平城内の支那軍掃蕩を開始した、時一十八日午前二時一十分、支那軍も砲弾の猛射を以て之に應へ北平一帯は今や砲聲の轟きと飛行機の爆音に包まれて修羅の巷となり本格的戰場となつた。

我〇〇部隊は南門に、〇〇部隊は西門に肉薄、支那軍守備兵こ激烈なる交戦の結果同日午前十一時西門を同午後一時南門を完全に占據した、時一十八日午前二時一十分、支那軍も砲弾の猛射を以て之に應へ北平一帯は今や砲聲の轟きと飛行機の爆音に包まれて修羅の巷となり本格的戰場となつた。

## 我猛擊に支那軍 散を乱して潰走

郎坊に於ける戰闘詳報

(二十七日聖市着電) 鯉登大佐部隊は廿六日午前七時頃、郎坊に到着し飛行隊も之を協力して爆撃及び機上戰闘を行ひたる結果同八時頃支那軍は混乱に陥り潰走せり、我軍は之を安定方面に追撃せり、鯉登部隊の戰死傷者は十三名なり、北平線は今朝以來不通となり尙復報に依れば五井(中尉)部隊は又銃夕食中に突如射撃を受けたる由

(豊台二十六日) 我軍再度の爆撃に郎坊附近の支那軍は總崩れとなり多數の屍体を遺棄、鐵道沿線の高架煙を西北方に向け散を亂して潰走中、天津より救援に出動せる〇〇部隊は一舉敵を殲滅すべく、酷熱を冒して日下進撃中。

(二十七日聖市着電) 支那駐屯軍司令部發表、郎坊の敵は我飛行機の爆撃に依り遂に退却を開始したが郎登部隊は殘る敵を攻撃し遂に午前八時過ぎ郎坊を占領せり、尚一部隊を以て黄村に向け進撃中なり

香月司令官の最後通牒

(二十六日午後三時三十分) 松井特務機關長は宋哲元に對し、我軍の如き香月司令官の通告を手交せり又北平城内に在る第三十九師の部隊は當初軍に於て貢はるべきものなりを北平城内より撤退し靖遠にある第三十七師の部隊を經て本月二十八日正午迄に永定河以西の地區に移動し引續き之等の保定方針を以て黄村の不法起因に對する誠意を缺かず遂に遡る貴軍の不法射撃に基に遡る貴軍の不法起因に對する誠意を缺かず

(二十六日午後三時三十分) 松井特務機關長は宋哲元に對し、我軍の如き香月司令官の通告を手交せり又北平城内に在る第三十九師の部隊は當初軍に於て貢はるべきものなりを北平城内より撤退し靖遠にある第三十七師の部隊を經て本月二十八日正午迄に永定河以西の地區に移動し引續き之等の保定方針を以て黄村の不法起因に對する誠意を缺かず遂に遡る貴軍の不法射撃に基に遡る貴軍の不法起因に對する誠意を缺かず

## 小部隊と侮り 我軍に挑戦



★廿四日  
田代中將 駐留凱旋

(聖市總領事館入電、郎坊に於ける日支兩軍の交戰原因及て北平・天津間の中央に位す郎中將の進封はけふ長崎入港するに於ては先づ速やかに芦びその詳報)

日本軍司令官  
陸軍中將 香月清司  
第十九軍長 宋哲元

（東京二十六日）支那駐屯軍司令部發表、郎坊の敵は我飛行機の爆撃に依り遂に退却を開始したが郎登部隊は殘る敵を攻撃し遂に午前八時過ぎ郎坊を占領せり、尚一部隊を以て黄村に向け進撃中なり

右實行を觀ざる於ては貴軍に誠意なきものと認め遣され

る第三十七師を明廿七日正午迄に退却し

執乍我軍は獨自の行動を取るべし

その場合に起る一切の責任を負ひ

我軍に於て貢はるべきものなり

昭和十二年七月廿六日

北平城内に在る第三十九師は北平城内より撤退し靖遠にある第三十七師の部隊を經て本月二十八日正午迄に永定河以西の地区に移動し引續き之等の保定方針を以て黄村の不法起因に對する誠意を缺かず遂に遡る貴軍の不法射撃に基に遡る貴軍の不法起因に對する誠意を缺かず

（二十六日午後三時三十分）松井特務機關長は宋哲元に對し、我軍の如き香月司令官の通告を手交せり又北平城内に在る第三十九師の部隊は當初軍に於て貢はるべきものなりを北平城内より撤退し靖遠にある第三十七師の部隊を經て本月二十八日正午迄に永定河以西の地区に移動し引續き之等の保定方針を以て黄村の不法起因に對する誠意を缺かず遂に遡る貴軍の不法射撃に基に遡る貴軍の不法起因に對する誠意を缺かず

（二十六日午後三時三十分）松井特務機關長は宋哲元に對し、我軍の如き香月司令官の通告を手交せり又北平城内に在る第三十九師の部隊は當初軍に於て貢はるべき





